

貸借対照表

平成31年3月31日現在

(単位：百万円)

資 産 の 部		負 債 の 部	
科 目	金 額	科 目	金 額
<b>流 動 資 産</b>	<b>12,836</b>	<b>流 動 負 債</b>	<b>25,108</b>
現金及び預金	3,657	買掛金	242
売掛金	7,275	短期借入金	17,973
有価証券	126	未払金	1,497
製品	20	未払法人税等	1,833
原材料	6	未払消費税等	542
貯蔵品	4	未払費用	407
前渡金	34	預り金	1,361
前払費用	156	賞与引当金	877
未収入金	1,081	返品調整引当金	0
立替金	186	ポイント引当金	11
その他流動資産	292	売上値引引当金	32
貸倒引当金	△ 5	受注損失引当金	118
		その他流動負債	206
<b>固 定 資 産</b>	<b>101,686</b>	<b>固 定 負 債</b>	<b>1,510</b>
<b>有 形 固 定 資 産</b>	<b>23,436</b>	長期未払金	321
建物	5,584	その他固定負債	1,189
建物附属設備	150		
構築物	59	<b>負 債 合 計</b>	<b>26,619</b>
機械及び装置	1	<b>純 資 産 の 部</b>	
車両運搬具	3	株主資本	88,910
工具、器具及び備品	254	資本金	9,090
土地	13,857	資本剰余金	25,963
建設仮勘定	3,524	資本準備金	14,185
<b>無 形 固 定 資 産</b>	<b>64</b>	その他資本剰余金	11,778
ソフトウェア	46	利益剰余金	53,855
その他無形固定資産	18	利益準備金	749
<b>投 資 そ の 他 の 資 産</b>	<b>78,185</b>	その他利益剰余金	53,106
投資有価証券	71,457	別途積立金	331
関係会社株式	381	繰越利益剰余金	52,775
破産更生債権	5	評価・換算差額等	△ 1,006
関係会社出資金	2,499	その他有価証券評価差額金	1,147
前払年金費用	317	土地再評価差額金	△ 2,153
繰延税金資産	2,971		
その他投資	557	<b>純 資 産 合 計</b>	<b>87,904</b>
貸倒引当金	△ 5	<b>負 債 ・ 純 資 産 合 計</b>	<b>114,523</b>
<b>資 産 合 計</b>	<b>114,523</b>		

(注) 金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

# 損益計算書

自 平成30年4月1日  
至 平成31年3月31日

(単位：百万円)

科 目	金 額	
売 上 高		30,924
売 上 原 価		14,291
売 上 総 利 益		16,632
販売費及び一般管理費		6,804
営 業 利 益		9,828
営 業 外 収 益		
受 取 利 息	1,601	
受 取 配 当 金	2,194	
投資有価証券売却益	3,936	
為 替 差 益	81	
そ の 他	203	8,018
営 業 外 費 用		
支 払 利 息	102	
投資有価証券評価損	1,645	
投資有価証券売却損	67	
有 価 証 券 償 還 損	432	
そ の 他	75	2,323
経 常 利 益		15,523
税 引 前 当 期 純 利 益		15,523
法人税、住民税及び事業税	4,352	
法 人 税 等 調 整 額	△ 650	3,702
当 期 純 利 益		11,820

(注) 金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

## 重要な会計方針に係る事項に関する注記

### (1) 有価証券の評価基準及び評価方法

- ① 売買目的有価証券
- ② 子会社株式
- ③ 満期保有目的の債券
- ④ その他有価証券

時価のあるもの

時価のないもの

時価法(売却原価は移動平均法により算定)  
移動平均法による原価法  
償却原価法(定額法)

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)  
移動平均法による原価法  
又は償却原価法(定額法)  
なお、投資事業組合等については、入手可能な決算書を基礎として持分相当額を純額で取り込む方法によっております。

時価法

### (2) デリバティブの評価基準及び評価方法

### (3) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は原価法(収益性の低下による簿価の切り下げの方法)によっております。

- ① 製品・商品及び原材料
- ② 仕掛品
- ③ 貯蔵品

移動平均法  
個別法  
最終仕入原価法

### (4) 固定資産の減価償却の方法

- ① 有形固定資産

定率法(ただし、平成10年4月1日以降に取得した建物(附属設備を除く)並びに平成28年4月1日以降に取得した建物附属設備及び構築物については、定額法によっております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物	7～50年
建物附属設備	3～15年
工具、器具及び備品	2～10年

- ② 無形固定資産

自社利用のソフトウェア

社内における見込利用期間(5年以内)に基づく定額法

その他の無形固定資産

定額法

- ③ 少額減価償却資産

取得価額が10万円以上20万円未満の資産については、3年間均等償却によっております。

### (5) 引当金の計上基準

- ① 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、以下の方法に基づき計上しております。

- a. 一般債権
- b. 貸倒懸念債権及び破産更生債権等

貸倒実績率法によっております。  
財務内容評価法によっております。

- ② 賞与引当金

従業員に支給する賞与の支出に充てるため、支給見込額に基づき計上しております。

- ③ 返品調整引当金

当社は製品の将来予想される売上返品による損失に備えるため、過去の返品実績率を基準とする返品見込額の売上総利益相当額を計上しております。

- ④ 退職給付引当金

従業員の退職給付に備えるため、当事業年度末における退職給付債務及び年金資産の見込額に基づき、当事業年度末において発生していると認められる額を計上しております。

・退職給付見込額の期間帰属方法

退職給付債務の算定にあたり、退職給付見込額を当事業年度末までの期間に帰属させる方法については、給付算定式基準によっております。

・数理計算上の差異及び過去勤務費用の費用処理方法

数理計算上の差異は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数(9～12年)による定額法により按分した額を発生翌事業年度から費用処理することとしております。

過去勤務費用は、各事業年度の発生時における従業員の平均残存勤務期間以内の一定年数(9～12年)による定額法により按分した額を発生した事業年度から費用処理することとしております。

- ⑤ ポイント引当金

オンラインショッピングにより付与されたポイントの使用により将来予想される売上値引に備えるため、過去のポイント使用実績率に基づき将来使用されると見込まれる額を計上しております。

- ⑥ 売上値引引当金

将来発生する売上値引に備えるため、当事業年度末における売上値引の見込額を計上しております。

- ⑦ 受注損失引当金

受注制作に係る将来の損失に備えるため、当事業年度末において将来の損失が見込まれかつ、その金額を合理的に見積もることが可能なものについて、その損失見込額を計上しております。

- (6) 受注制作のソフトウェアに係る収益の計上基準  
当期末までの進捗部分について成果の確実性が認められるプロジェクトについては  
工事進行基準(プロジェクトの見積もりは原価比例法)を適用し、  
その他のプロジェクトについては工事完成基準を適用しています。
- (7) その他計算書類作成のための基本となる重要な事項  
消費税等の会計処理  
税抜方式によっております。

#### 貸借対照表に関する注記

- (1) 関係会社に対する金銭債権及び金銭債務(区分表示したものを除く)
- |        |            |
|--------|------------|
| 短期金銭債権 | 30 百万円     |
| 短期金銭債務 | 12,023 百万円 |
| 長期金銭債務 | 897 百万円    |
- (2) 有形固定資産の減価償却累計額 9,166 百万円
- (3) 「土地の再評価に関する法律」(平成10年3月31日公布法律第34号)及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」(平成11年3月31日改正)に基づき有形固定資産の土地の再評価を行い、土地再評価差額金を純資産の部に計上しております。  
「土地の再評価に関する法律」及び「土地の再評価に関する法律の一部を改正する法律」第3条第3項に定める再評価の方法については、土地の再評価に関する法律施行令(平成10年3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める地価税法(平成3年法律69号)第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額に基づいて奥行価格補正等合理的な調整を行って算出する方法を採用しております。
- |                                      |            |
|--------------------------------------|------------|
| 再評価を行った年月日                           | 平成12年3月31日 |
| 再評価を行った土地の期末における<br>時価と再評価後の帳簿価額との差額 | 69百万円      |

#### 税効果会計に関する注記

繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

繰延税金資産	
棚卸資産評価損否認	57百万円
事業税引当金否認	159百万円
受注損失引当金	36百万円
賞与引当金否認	268百万円
投資有価証券評価損否認	1,181百万円
関係会社株式評価損否認	205百万円
ソフトウェア費用処理否認	229百万円
土地再評価差額金	948百万円
その他	232百万円
<b>繰延税金資産小計</b>	<b>3,319百万円</b>
評価性引当額	-
<b>繰延税金資産合計</b>	<b>3,319百万円</b>
繰延税金負債	
有価証券評価差額金	△ 250百万円
その他	△ 97百万円
<b>繰延税金負債合計</b>	<b>△ 347百万円</b>
<b>繰延税金資産の純額</b>	<b>2,971百万円</b>

関連当事者との取引に関する注記

(1) 親会社

種類	会社名	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権の所有 (被所有)割合
親会社	株式会社コーエー テクモホールディングス	横浜市港北区	15,000	グループ会社の 管理運営	(被所有) 直接 100.0%

関係の内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員の兼任等	事実上の関係				
兼任9人	管理業務委託	業務委託料支払 資金の借入 資金の返済	1,535 8,205 8,100	— 短期借入金	— 11,403

(2) 兄弟会社

種類	会社名	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権の所有 (被所有)割合
親会社の子会社	株式会社コーエー テクモネット	横浜市港北区	110	ソフトウェア・パッケージの 流通・卸業務	—

関係の内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員の兼任等	事実上の関係				
兼任3人	当社製品の 販売等	当社製品の販売等 資金の借入 資金の返済	4,801 4,550 4,212	売掛金 短期借入金	1,195 3,400

種類	会社名	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権の所有 (被所有)割合
親会社の子会社	株式会社コーエー テクモウェブ	東京都 千代田区	100	アミューズメント施設の企画開 発・運営・管理 スロット・パチンコの液晶開発	—

関係の内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員の兼任等	事実上の関係				
兼任4人	業務受託 著作権の許諾	資金の借入 資金の返済	760 600	短期借入金	1,384

## (3) 役員及び個人主要株主等

種類	会社名	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権の所有 (被所有)割合
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	株式会社 MYプロパティ (注)4	横浜市港北区	14	不動産賃貸	—

関係の内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員の兼任等	事実上の関係				
兼任3人	固定資産の共同取得 役員の兼任	固定資産の共同取得 (注)5	—	—	—

種類	会社名	所在地	資本金 (百万円)	事業の内容	議決権の所有 (被所有)割合
役員及びその近親者が議決権の過半数を所有している会社	株式会社 AKフォーチュン (注)4	横浜市港北区	14	不動産賃貸	—

関係の内容		取引の内容	取引金額 (百万円)	科目	期末残高 (百万円)
役員の兼任等	事実上の関係				
兼任3人	固定資産の共同取得 役員の兼任	固定資産の共同取得 (注)5	—	—	—

(注)1. 取引金額には消費税等は含まれておらず、期末残高には消費税等が含まれております。(短期借入金を除く)

- 価格その他の取引条件は、市場実勢を勘案し、価格交渉の上で決定しております。
- 資金の借入は、市場金利等を勘案して利率を決定しております。
- 当社代表取締役会長襟川陽一及びその近親者が議決権を100%保有しております。
- 当社が株式会社MYプロパティ及び株式会社AKフォーチュンの2社(以下「当該2社」)共同で取得予定の複合施設に関するものです。当該複合施設については、平成29年12月1日に建物売買契約を締結し、令和2年1月竣工後の取得を予定しております。3社が取得予定の複合施設の価額は21,933百万円となります。当該複合施設のうち、当社はオフィス、ライブハウス型ホールを取得する予定となり、その価額は16,306百万円となります。また、当社は平成29年12月27日に中間金として3,522百万円を支払い、建設仮勘定として計上しております。当社による複合施設の取得価額の算定方法の作成及び評価についてそれぞれ外部専門家に依頼し、当該算定方法が適切である旨の意見を得ております。なお、当該複合施設の取得につき当社と当該2社との間の債権・債務はなく、今後も予定しておりません。

## (4) 親会社及び重要な関連会社に関する情報

## ・親会社情報

株式会社コーエーテクモホールディングス(東京証券取引所に上場)

## 1 株当たり情報に関する注記

- 1株当たり純資産 1,281円94銭
- 1株当たり当期純利益 172円39銭

(注) 1株当たり当期純利益の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	当期
当期純利益(百万円)	11,820
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—
普通株式に係る当期純利益(百万円)	11,820
普通株式の期中平均株式数(千株)	68,571